

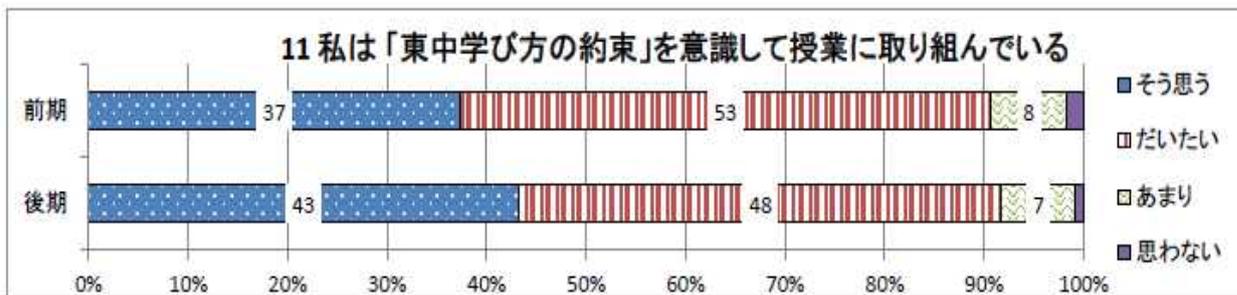
I 基礎学力

生徒の状況	自己評価A		運営協議会評価	学校運営協議会委員のコメント
	前期	後期		
基本的な学習習慣を身に付けている。	おおむね良好	おおむね良好	良好	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教師質問項目13の数値が低いのは、先生方の意識の高さからである。後期に期待している ・ 後期は学習状況調査や全国学力テスト等の客観的なデータからの分析をお願いしたい。
	おおむね良好	良好		
自己評価の概要と学校の改善策	<p>【前期】生徒質問項目11「東中学び方の約束を意識して授業に取り組んでいる」では、全校の肯定的な意見が90%と昨年度を上回る結果となった。これは、年度当初の学習指導集会や各授業での定期的な指導、学習委員長の放送による全校への呼び掛けの成果であると考えられる。生徒が学び方の約束を意識して授業に取り組んでいる様子が伺える。</p> <p>教師質問項目13「東中スタンダードを意識した授業」では教師全体の肯定的な意見が82%と昨年度よりも大きく下がってしまった。研修など事あるごとに「東中スタンダード」については周知しているため、「東中スタンダード」への意識が高まっている分、より高いレベルを求め、上手くできていないと感じる教師が多くなったことが考えられる。2学期以降は「東中スタンダード」の中でも、「発問・指示の精選」、「板書」の部分を高めていけるように全職員で取り組んでいきたい。また、学年や教科同士で授業を見合う会などを設定し、「東中スタンダード」のよりよい向上につなげていきたい。</p> <p>生徒質問項目12「家庭学習」に関する項目では、肯定的な意見が81%と昨年度よりも若干下がった。保護者質問項目8「お子さんは、学習に適した環境で集中して家庭学習に取り組んでいますか。」と保護者質問項目9「お子さんとメディア利用について話し合い、ルールを決めて使用させていますか。」が共に60%台と低く、「家庭学習」に対してメディアの使用が影響を与えていることが考えられる。メディア使用に対して目標を決めて、使用時間を考えるメディアコントロール週間を実施している時期は、生徒も保護者もメディア使用に対して意識を高めている様子がみられるので、生徒会や生徒指導部と連携して、メディアコントロール週間の実施回数を増やし、テスト期間に充てるなど生徒がより集中して家庭学習に取り組める機会を増やしていけるようにしたい。</p> <p>【年度（→次年度）】秋田県学習状況調査の結果をみると、県平均を100とした時の指数が、1年生が102.5、2年生が106.7と県平均を上回る結果となった。また、評価指標1をみても、数値が上昇し、80%以上到達している。このことから、基本的な学習習慣はおおむね身に付いていると考えられる。これは、学習委員会で学び方の約束についての向上を呼びかける活動をする等、生徒主体の活動を意図的に取り組んできたことや、先生方で「東中学び方の約束」を共有し、機を逃さず、約束の再確認や指導をしてきたこと、また、「東中スタンダード」について、校内研修や研究授業、学年で授業を見合う会を行うことを通して、共通理解を深めてきた成果であると考えられる。これらの取組は今後も継続していきたい。</p> <p>家庭学習については、更なる質の向上を目指して、これまで同様、生徒間で家庭学習の題材や内容について交流する機会を設定したり、見本となるノートを教師が紹介したりするとともに、成果が上がっているとみられる家庭学習ノートを学年の廊下に掲示し、生徒がいつでも参考にできるように環境も整えていきたい。また、保護者にも生徒の家庭学習の状況を見取ってもらえるよう、週末の家庭学習ノートには保護者からもチェックやコメントをもらうようにし、保護者と協力して、よりよい家庭学習になるようにしていきたい。メディアコントロールについては、依然として課題がある。後期同様、引き続き生徒指導部と連携して、メディアコントロール週間の実施回数を増やし、テスト期間に充てる取組や、保護者とメディア使用の約束（ルール）を守ることの大切さについて共有する体制作りにも力を入れていきたい。</p>			

評価指標	実践課題	主な取り組み	自己評価B	
			前期	後期
1 基本的な学習習慣	(1) 望ましい学習習慣の確立	東中スタンダードの定着と深化	3	3
2 充実した家庭学習	(2) 効果的な家庭学習の支援	目的意識をもたせた家庭学習への支援	3	3

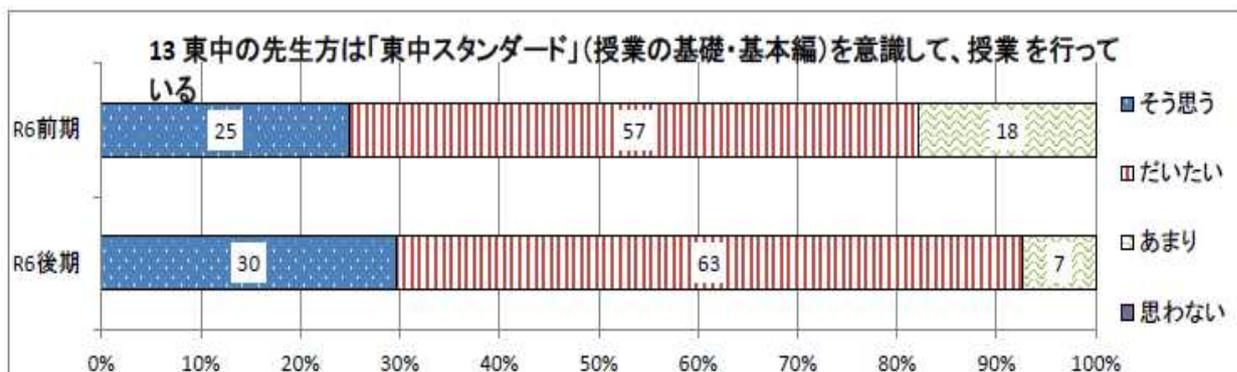
【評価指標 1】 基本的な学習習慣

生徒
前期
3.26
↓



後期
3.34

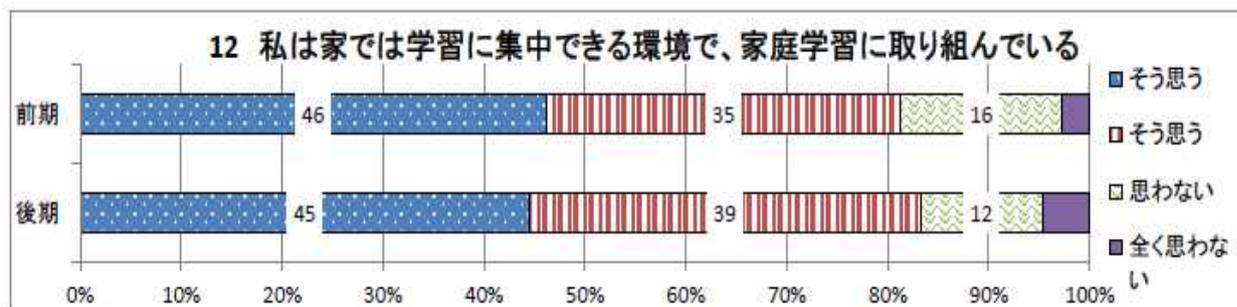
教師
前期
3.07
↓



後期
3.22

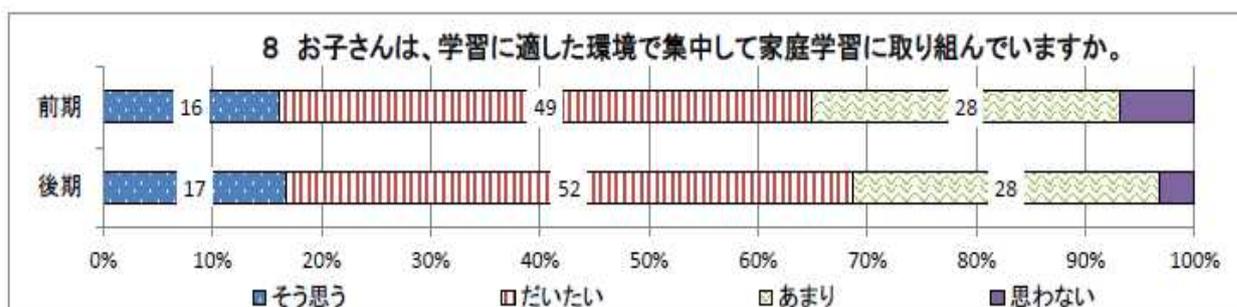
【評価指標 2】 充実した家庭学習

生徒
前期
3.25
↓



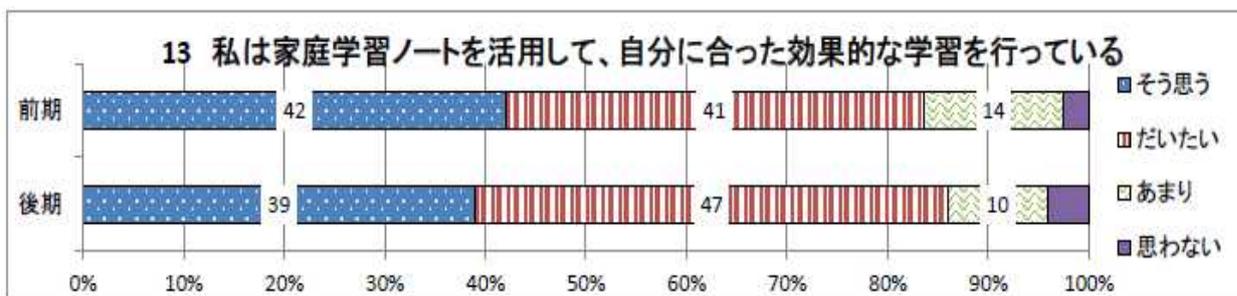
後期
3.23

保護者
前期
2.74
↓



後期
2.82

生徒
前期
3.23
↓



後期
3.21

Ⅱ 教師の研修

学校の状況		自己評価A	運営協議会評価	学校運営協議会委員のコメント
学校の研究課題の解決に取り組むとともに、自らの指導力を高めるための研修に努め、指導力の向上が図られている。	前期	おおむね良好	良好	<ul style="list-style-type: none"> ・授業にテンポがあり、子どもの食いつきもよかった。昨年度よりよい感じがした。 ・先生方に伸びしろがある。アンケートの数値が低いのは、高いレベルを目指し自分に厳しいからだと思われる。 ・校長先生の何を目指し、何をするか、職員に浸透している。 ・鳳凰ツアーは大変よい取組である。若手の積極的な参観を期待する。
	後期	良好	良好	<ul style="list-style-type: none"> ・教科の枠を超えた研修会により、先生方は着実に力を付けている。その効果が先生方の仲のよさに表れ、生徒にもよい効果を与えている。

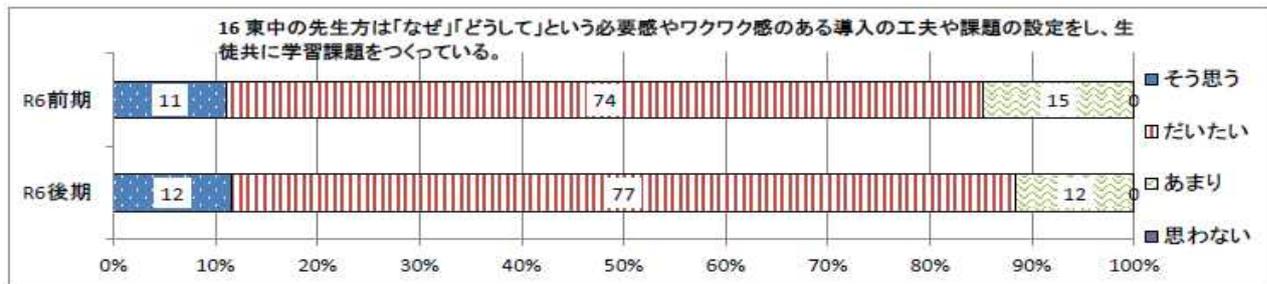
自己評価の概要と学校の改善策	<p>【前期】鳳凰タイムの設定について、全体的な数値は向上しているものの、「あまり思わない」の回答が増えている。校内研修会や各種研究会において、「生徒が互いに学び合い、高め合う姿を引き出す」ためにはどのような手立てが必要になるかを協議し、模擬授業を行った。そこでの気づきや学びが、日頃の授業実践につながっていないための回答と思われる。2学期の各種研究会において、各教科における鳳凰タイムの持ち方について再度協議し、同一歩調で鳳凰タイムの実践を進めていきたい。(教師質問項目14・20)</p> <p>導入の工夫については、1学期の研究会で、生徒の振り返りをもとに、生徒と共に学習課題をつくる実践を見ることができた。「魅力ある導入の工夫」は本校の共通実践事項でもあるため、研究推進のための柱であることを意識した実践を進めていきたい。(教師質問項目16)</p> <p>今年度、定期テストの数が4回から3回に変わったことで、どの教科においてもこれまで以上に単元テストを重視し、効果的・計画的に位置付けて実施することができている。また、その結果を受けて補充指導を行うなど、下位の生徒への手立てを講じている。今後は、テスト結果を分析し、自身の授業における課題は何かを把握して、授業改善につなげようとする意識を強固にしていきたい。(教師質問項目18・19)</p>
	<p>【年度(→次年度)】3年目となった研究主題の解決に向け、教科の枠を超えて様々な集団で指導案検討会を実施し、授業づくりに携わる経験を積み重ねたことで、職員が一体となって授業改善を推進することができた。また、各研修会では全職員が主体的に参加し、積極的に意見交換したことで成果を上げ、その成果を自身の教科に還元しようと努めることができた。また各研究会や訪問の際の「めあて・ねらい」の作成を重ねたことで、職員一人一人が1単位の授業だけでなく、単元構想や単元計画など全体を見通す力が付いてきたと思われる。</p> <p>一年間を通して、各教科において鳳凰タイムを積極的に展開してきたが、「深化」という点については、生徒の思考を深めるための教師の切り返しや揺さぶりについて、更に実践を積み重ねる必要がある。綿密な教材研究や教科部会の充実、他教科から学ぶ姿勢を今後も大切にしていきたい。</p>

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	後期
3 授業改善の推進	(3) 授業構想力の向上 魅力ある導入の工夫	各教科の見方・考え方を生かした授業構想 諸検査データの分析と活用	3	3
	(4) 生徒の主体的な学びを創る授業づくり	教師のコーディネート力の向上 鳳凰タイムの深化 振り返りの充実		
4 研修の実施及び活用	(5) 研究会を通しての指導力の向上	研修成果の情報提供 効果的な研究会の実施	3	4
	(6) 各教科での取組の共有	教科部会の充実 教科部会と学年部会の連携		

【評価指数3】授業改善の推進

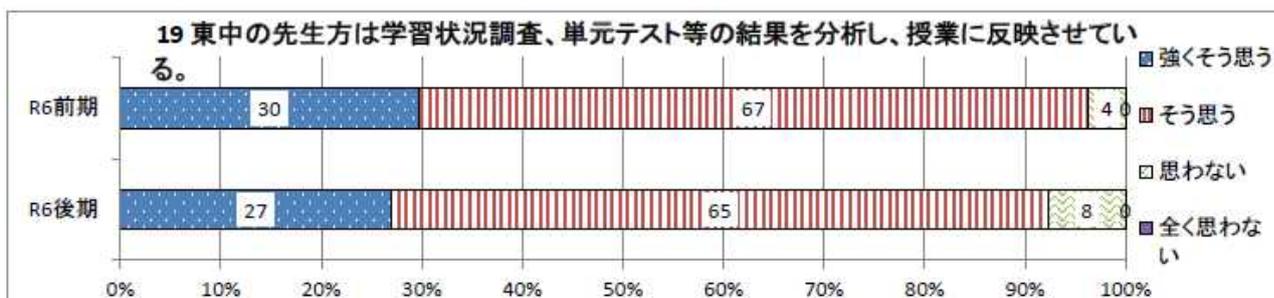
教師
前期
2.96
↓

後期
3.00



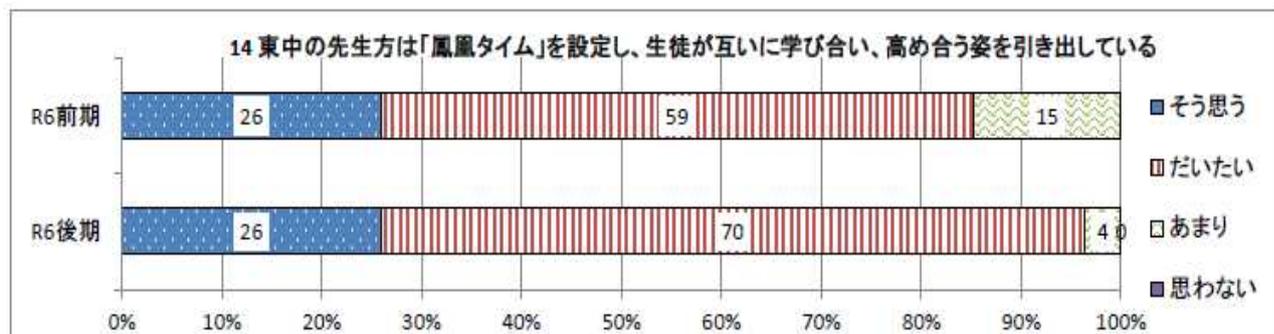
教師
前期
3.26
↓

後期
3.19



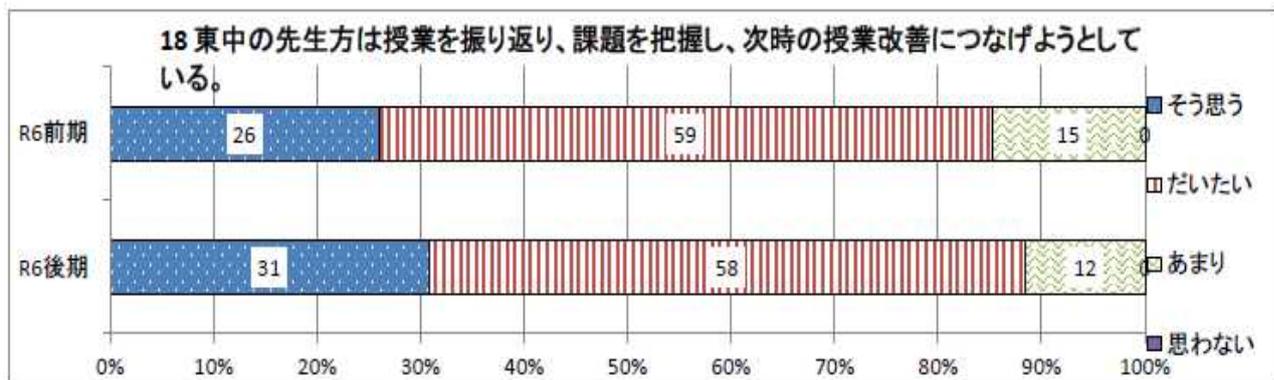
教師
前期
3.11
↓

後期
3.22



教師
前期
3.11
↓

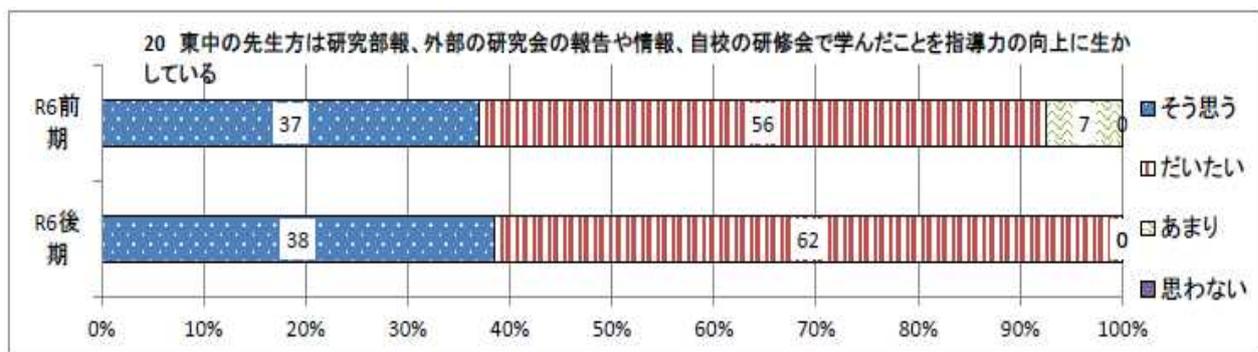
後期
3.19



【評価指数4】研修の実施及び活用

教師
前期
3.30
↓

後期
3.38



Ⅲ 自主的・自律的な生活

生徒の状況		自己評価A	運営協議会評価	学校運営協議会委員のコメント
仲間を大切にしながら、礼儀正しいあいさつと規律ある生活を送ろうとしている。	前期	おおむね良好	良好	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人一人の変化や、個々の生徒の学びの成長に着目している。大変素晴らしいことだ。 ・あいさつが浸透したときの東中生の姿が楽しみである。後期に期待している。 ・生徒質問事項1の数値が高い。学校の方向性がしっかりしているからだと思われる。
	後期	良好	良好	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が仲間を大切にしていることがよく分かる。また、様々な問題を抱えた生徒にも先生方がしっかりとケアをしている。 ・質問事項1・5の結果が素晴らしい。
自己評価の概要と学校の改善策	<p>【前期】基本的な生活習慣の確立では、数値が昨年度よりも減少しているが、質問事項1・3では高水準を維持できた。特に質問事項3では、4月始めに清掃の手順等を集会で周知することができたことが要因であると考えられる。しかし、質問事項4では、大きく減少する結果となった。特に1年生がポイントを大きく落とすとともに、各学年に「あまり思わない」を選択している生徒が一定数いることも明らかになった。期を逃さず指導し、時間に遅れることが与える周りへの影響を教えるなど、継続して指導していきたい。また、教師自身が時間を守り、生徒が見通しがもてる指示を出すなど、率先垂範の意識を大切にしたい。質問事項2のあいさつでは、数値の減少的には少ないが、年々低下し、「そう思う」と答える割合も、他の項目と比べて少ない。保護者アンケートの質問項目1にある「あいさつ」に関する項目の約90%が肯定的な回答をしているのに対して、教師アンケートの質問項目1にある「あいさつ」に関する項目は肯定的な意見が約40%にとどまった。ここから、生徒及び保護者と教職員が思う「あいさつのレベル」に差があり、そのレベルが伝わっていないことが予想される。生徒指導部だけでなく、各校務部、生徒会と連携しながら、まずは校内のレベルアップを図りたい。</p> <p>相談活動の質問事項では、両項目で大きく減少する結果となった。質問事項4の「月の振り返り」に関する項目では、特に大きく減少が見られた。今年度転任者も多く、まだその意義が十分に伝わっていかたり、実用性を感じる機会が少なかつたりしたことが予想される。今一度、全職員で運用の意義を確認し、効果的な運用となるようにしたい。</p> <p>【後期（→次年度）】仲間を大切にしながら、礼儀正しいあいさつと規律ある生活を送ることができる生徒が増えてきた。</p> <p>基本的な生活習慣の確立では、あいさつや清掃など共通理解に基づいた指導や、自律的な学校生活のための年間を通じたあいさつ運動や清掃指導、生活のきまりの厳守や時間の意識化を全職員が共通認識をもち、同じ熱量で指導できた成果と考えられる。</p> <p>相談活動の充実では、生徒指導の四機能を生かした人間関係づくりの推進を図るために、毎月の振り返りや諸アンケートの活用、養護教諭、家庭やSC、外部機関との連携が円滑に進められたことが、積極的な生徒理解につながったと考えられる。その結果として生徒質問事項1「学校生活が楽しい」と思う生徒が高水準を維持し、安心・安全な風土の醸成につながったと考えられる。</p> <p>次年度に向けて、礼儀正しいあいさつの活性化を図るために、あいさつ運動を全校輪番制にしたり、生活委員会主体の集会やイベントを開催したりすることにより、全校のあいさつのレベルに磨きをかけたい。</p>			

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	後期
5 基本的な生活習慣の確立	(7) あいさつや清掃など共通理解に基づいた指導	年間を通じたあいさつ運動 清掃指導	3	3
	(8) 自律的な学校生活	生活のきまりの厳守 時間の意識化(メディアコントロール)		
6 相談活動の充実	(9) 生徒指導の四機能を生かした指導	教育相談 人間関係づくりの推進	3	4
	(10) 積極的な生徒理解と連携	毎月の振り返りアンケート 保健室・家庭との連携 SCや外部機関との連携		

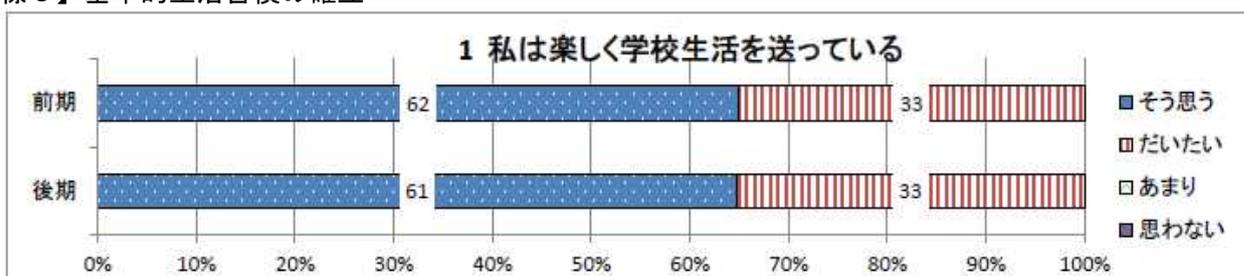
【評価指標 5】 基本的な生活習慣の確立

生徒
前期

3.55

後期

3.53

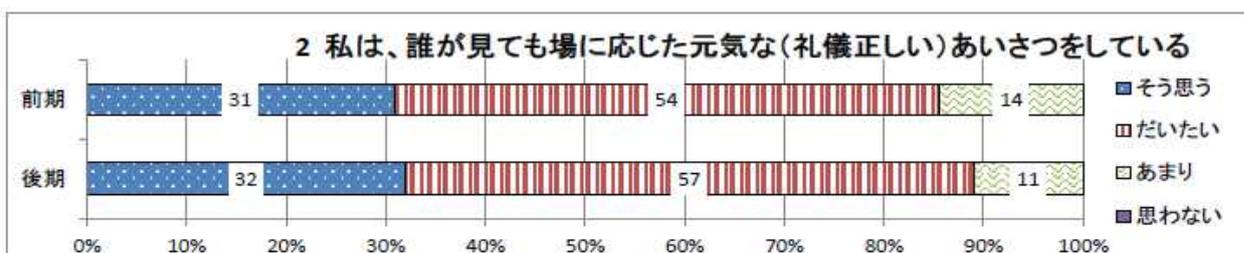


生徒
前期

3.15

後期

3.20

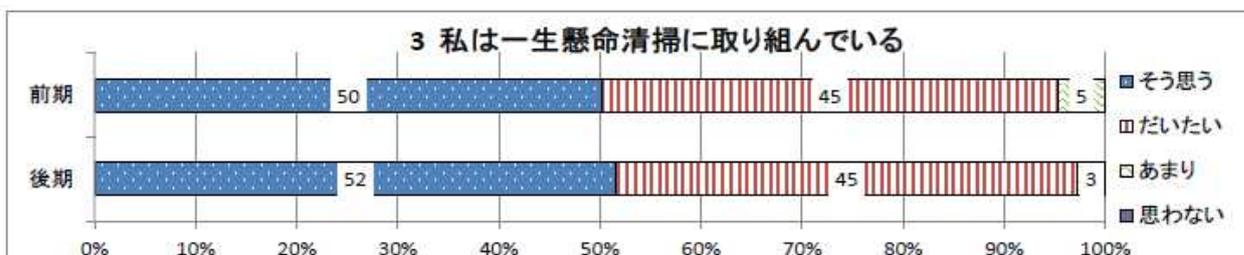


生徒
前期

3.46

後期

3.48

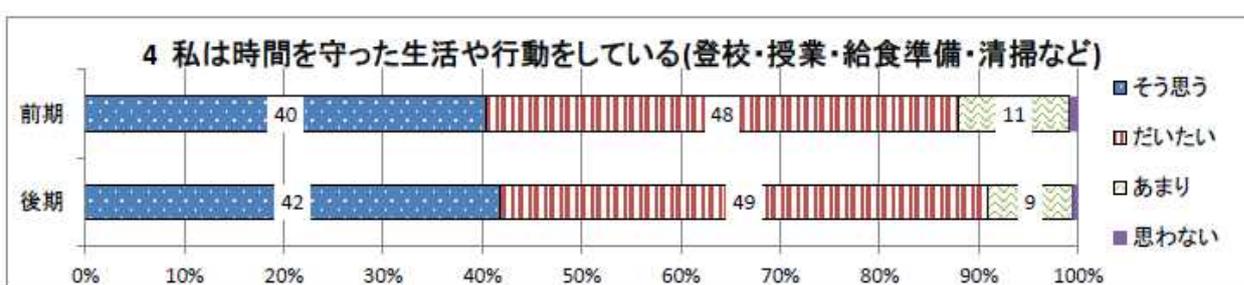


生徒
前期

3.27

後期

3.32



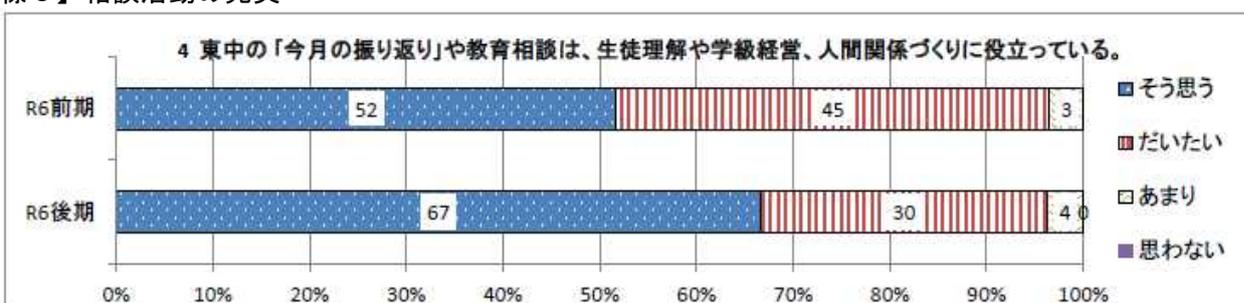
【評価指標 6】 相談活動の充実

教師
前期

3.48

後期

3.63

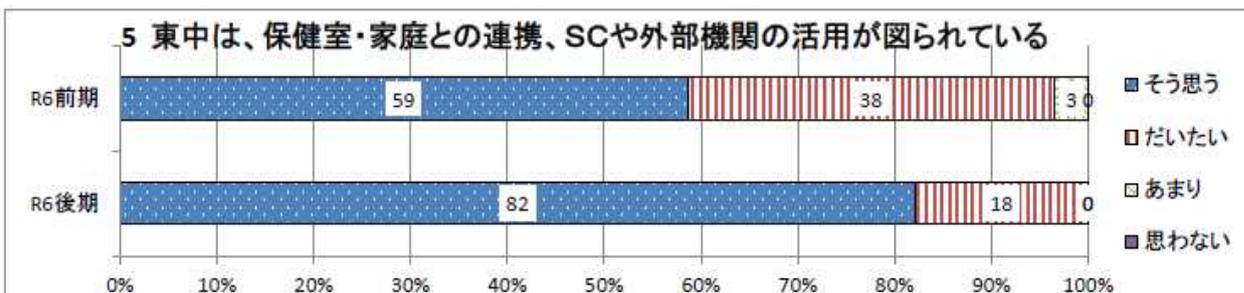


教師
前期

3.55

後期

3.82



Ⅳ 思いやりとたくましい心

生徒の状況		自己評価A	運営協議会評価	学校運営協議会委員のコメント
互いに認め合い、切磋琢磨しながら、一人一人がよさを発揮し、豊かな学校生活を送ろうとしている。	前期	おおむね良好	おおむね良好	・生徒自身が考え、実践、実現できている。生徒の考えを尊重し、自分たちの考えでやってもいいんだよという雰囲気が校内にある。
	後期	良好	良好	・生徒がやりたい、取り組みたいことを先生方が上手く拾い上げている。そのため、ボランティア活動もやらされ感がなく、主体的に取り組んでいる。

【前期】豊かな体験活動については、生徒質問項目6、7、10において数値が昨年度よりもやや減少した。特に生徒質問項目6については、子どもハローワークに参加する生徒が昨年度より増えたにもかかわらず、アンケートの数値が大きく下がっている。後期に向けては、「生徒にどんな力を身に付けさせたいのか」を考えながら、生徒のボランティアの体験を価値付けて、学びや成長を実感できるように支援したい。

集団生活の向上についても、生徒質問項目5、8、9において、昨年度よりも数値が下がっている状況である。特に質問項目9については、数値が低い状況である。東中三大自慢に関わる行事が2学期に集中しているため、1学期の評価が低めになっていることが考えられる。また、日々の教育活動や行事が東中三大自慢への意識付けにつながっていない状況があると考えられる。2学期の各行事においては、ねらいを明確にして、生徒の声を生かしながら、東中三大自慢と関連させながら学校行事の計画を行い、生徒が成長を実感したり、職員が成長を価値付けたりできるような振り返りの場面の設定が必要だと考えられる。次年度に向けては、年間を通して、生徒の意識向上が図れるような適切な行事設定を行う必要があると考える。

現在の中学生は、非常に多忙な毎日を送っている。その中で充実感、達成感を味わわせるためには、行事を増やすのではなく、行事一つ一つの教育効果をいかに高められるような、事前事後の指導も踏まえた行事を計画できるか考えていかなければならないと感じる。

【年度（→次年度）】全ての指標について数値が上昇した。互いに認め合い、切磋琢磨しながら、一人一人がよさを発揮し、豊かな学校生活を送ることを意識した指導の効果が出たと考えられる。

豊かな体験活動については、子どもハローワークによるきりたんぼまつりボランティアや生徒会発案による落ち葉拾いボランティアなど、自分たちからボランティアに参加しようとする生徒が増えた。また、東中ボランティアでは、地域の方々ややりとりしてボランティア内容を決定的ことで、「やらされ感」がない、生徒主体の活動にすることができたと考えられる。生徒同士、また職員から生徒による価値付けによって、ボランティアそのものに楽しさや喜びを感じる生徒が増えてきたので、来年度も全校で地域を元気付ける活動のよさを実感できるように支援していきたい。

集団活動の向上については、合唱コンクールや東中祭など、様々な学校行事の中で、東中三大自慢を意識した事前事後の指導も含めた企画運営がなされた。今年度は合唱コンクールの3年生の練習を1年生が見学して学んだり、東中祭の部門別活動を縦割り活動にしたりしたことで、上級生のリーダーシップの下で活動を行うことができた。各学校行事のねらいを意識して取り組んできた成果だと考えられる。

次年度前期は学級・学年づくりが行われたばかりであることと、大きな学校行事が行われていない時期であることを踏まえて、日々の教育活動の中で互いに認め合い、切磋琢磨しながら、一人一人がよさを発揮し、豊かな学校生活を送ることを意識し、「豊かな体験活動」と「集団生活の向上」の視点を踏まえた指導をしていくことが重要だと考えられる。

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	後期
7 豊かな体験活動	(11)ふるさとに根ざし、自立の気概を育てる指導。地域、郷土愛の醸成	東中ボランティア、きりたんぼ祭りボランティア、子どもハローワークへの参加 職場見学、職業講話：1年生 職場体験学習、大館PR活動：2・3年生	3	3
8 集団生活の向上	(12)よりよい生活や人間関係の構築	学校教育活動全体を通じた道徳教育 学級プログラム・係活動での一人一役 集会などの話し合い	3	4
	(13)共感的協働力を高める集団活動。愛校心の醸成	東中太鼓の伝承 心一つに響き合う歌声活動 学校行事や生徒会行事の充実		

【評価指標 7】豊かな体験活動

生徒

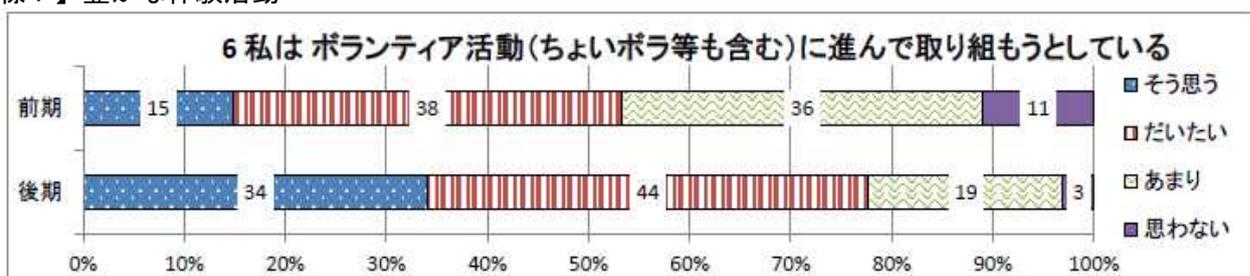
前期

2.57

↓

後期

3.09



生徒

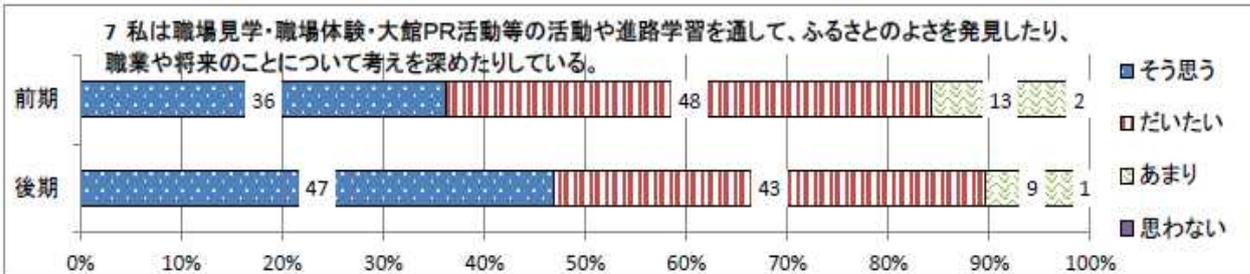
前期

3.18

↓

後期

3.35



生徒

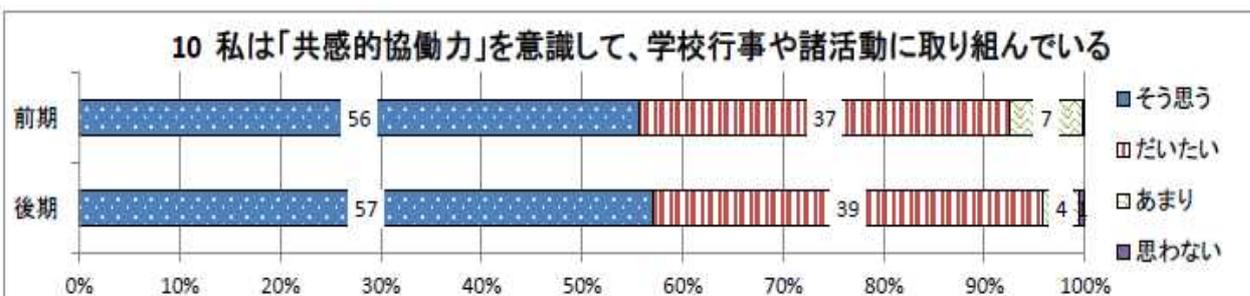
前期

3.48

↓

後期

3.52



【評価指標 8】集団生活の向上

生徒

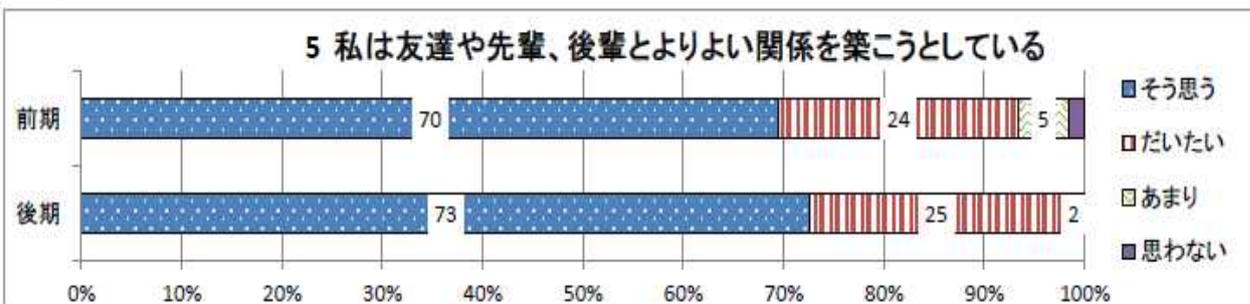
前期

3.61

↓

後期

3.70



生徒

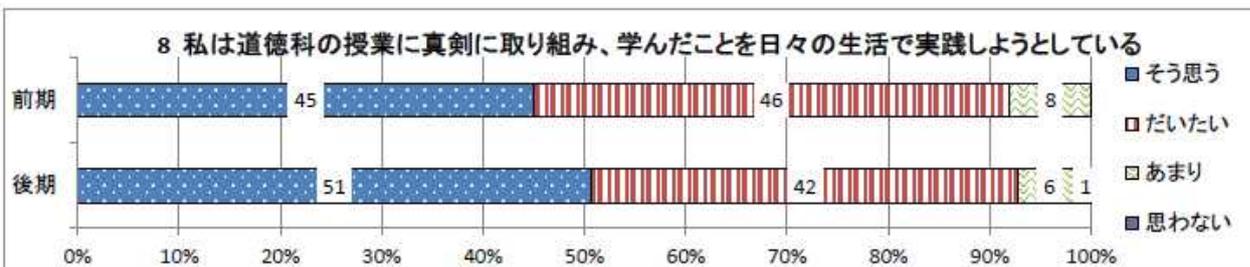
前期

3.34

↓

後期

3.42



生徒

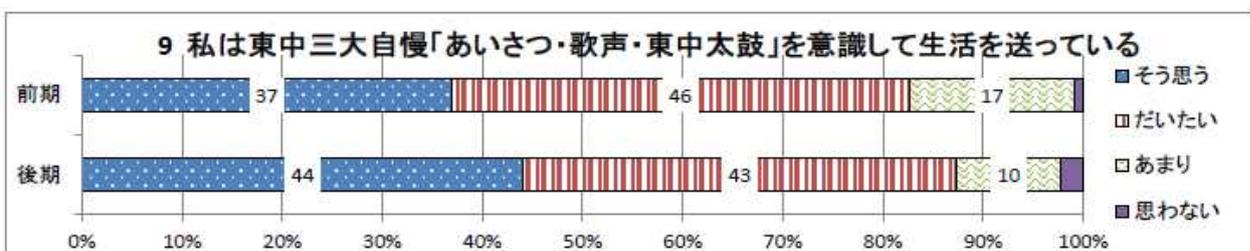
前期

3.19

↓

後期

3.29



V 保護者・地域との連携

学校の状況		自己評価A	運営協議会評価	学校運営協議会委員のコメント
学校の取組が分かりやすく保護者や地域に伝えられ、地域の教育力が効果的に活用されている。	前期	おおむね良好	おおむね良好	・PTAの活動は滞っているが、保護者として学校に関わっていること、そして学校が開き受け入れてくれていることに感謝している。もっとPTAと学校が連携していければと思う。(PTA会長より)
	後期	良好	良好	・Googleフォームによる欠席・遅刻・早退連絡を取り入れたことはありがたい。また、学校から送られてくるメールも、丁寧でありがたい。 ・来年度はPTAの小中連携にも取り組んでいきたい。(PTA会長)

自己評価の学校の改善策

【前期】保護者質問項目10の「お家の方は、学校だよりや学年通信、ほけんだより等に目を通していますか」については、肯定的な回答が全校で91%であり、学校や学年の様子が概ね伝わっている状況にある。保護者質問項目11の「PTAは主体的に活動している」については、肯定的な回答が全校で94%であり、昨年度よりも数値が上がっている。活動制限が緩和され、コロナ禍以前の活動に戻りつつあると感じている。5月の運動会のPTA種目や6月に行われたPTA親子講演会では、PTAの方々を中心にとなり動いて下さった。2学期にはPTA保体部主催の親子ボランティアなどがあり、ますますPTAの主体的な活動が活動が期待される。

教師質問項目24、保護者質問項目12の「学校は、地域人材の活用、職場体験・訪問等、地域と連携した活動に取り組んでいると思いますか」については、肯定的な回答が教師が92%、保護者が全校で95%であり極めて良好である。今年度のPTA親子講演会は、FMラジオおおだてから佐藤和幸さんを講師としてお招きし、「大館の魅力再発見！」という演題で講話していただいた。昨年引き続き地域の人材を活用できた。また、昨年度末から始まった「東中ダンスプロジェクト」では、本校卒業生の三浦栄一さんと菅原恵子さんにご協力いただき、曲とダンスが完成した。10月に行われる学校祭やきりたんぼ祭りで披露することになっている。今後も地域の人材を有効に活用し、生徒のふるさとキャリア教育を充実させていきたい。また、2学期には東中ボランティアが行われる。当日だけの活動でなく、事前には地域貢献やボランティアの意義を理解させ、東中生が地域を活性化する活動に取り組ませたい。

【年度(→次年度)】全ての項目で「そう思う」の数値が上がっている。特に「学校は地域の人材を有効に活用している」の数値アップが顕著である(前期39%→後期71% 前期3.32→後期3.71)。今年度、ダンスプロジェクトや東中太鼓リニューアル、各部活動の指導等に東中出身のOBに協力を仰ぎ、素晴らしい成果を残すことができた。また、地域人材に育てていただいた生徒を地域に披露することで、地域に元気を与えられたと思われる。来年度も地域のひと、もの、ことを十分に活用して生徒を育て、その姿を地域に発信し東中学校区を明るくしていければと思う。

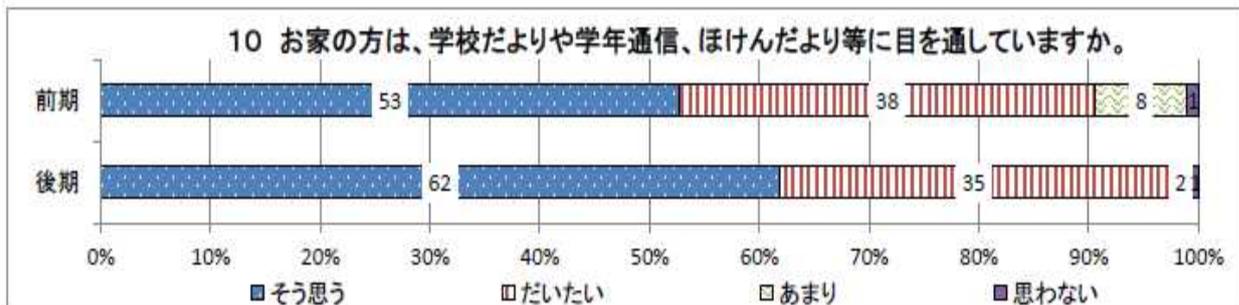
ホームページの更新や連絡メールの活用も数値アップが顕著である(前期59%→後期82% 前期3.59→後期3.79)。これは、適切な状況判断によるメール配信が効果的だったからだと思われる。自然災害や感染拡大など、学校を取り巻く危機に対して、生徒の安心・安全のために事前に保護者へ連絡し、未然防止に努めることができた。来年度も職員全体で危機意識をもち、生徒の安全・安心に努めていきたい。また、各学年のお便りや、保健だより、学校報などは生徒の実態をリアルタイムで発信し、読みやすさを工夫したことで保護者もお便りに目を通してくれたと思われる。しかし、いまだに生徒が保護者にお便りを見せていないこともある。HPやメールなどを利用することで保護者も容易に閲覧可能になると思う。各種便りのデータ化を検討したい。

PTAの主体的な活動に関しては、わずかながらの数値アップにとどまった。今年度は数年ぶりに親子ボランティアを実施したが、保護者の参加は少なかった。小学校の行事と重なったことも考えられるが、もう少しアナウンスが必要であった。来年度の課題として取り組んでいきたい。

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	後期
9 保護者との連携	(14) 教育方針や教育活動についての効果的な発信	教育活動等が見える各種だよりの発行 ホームページ、連絡メールの活用	3	3
	(15) 行事や諸活動の工夫	保護者の活動を通じた協力体制づくり 保護者の主体的な活動のための支援		
10 地域の教育力の有効活用	(16) 地域学校協働本部事業等を生かした教育活動	地域人材の効果的な活用 学校と地域住民等との双方向の連携 地域コーディネーターの活用	3	4

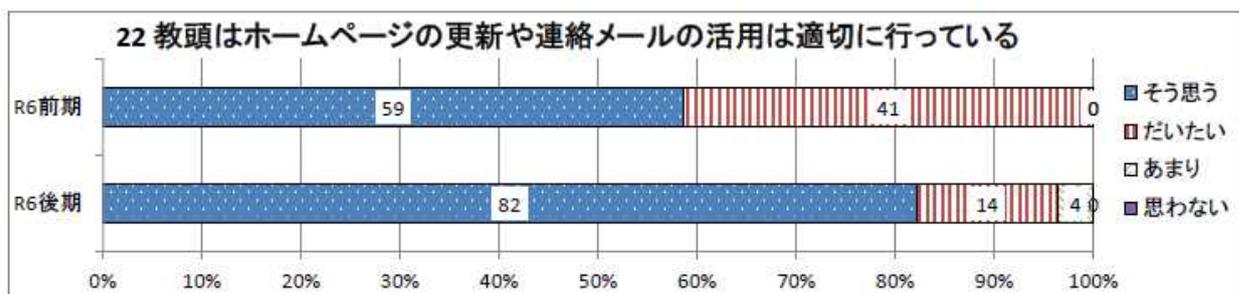
【評価指標9】保護者との連携

保護者
前期
3.42
↓



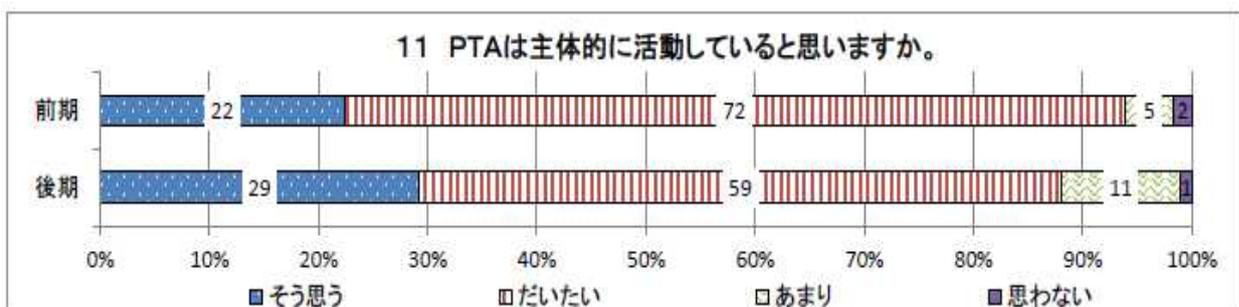
後期
3.59

教師
前期
3.59
↓



後期
3.79

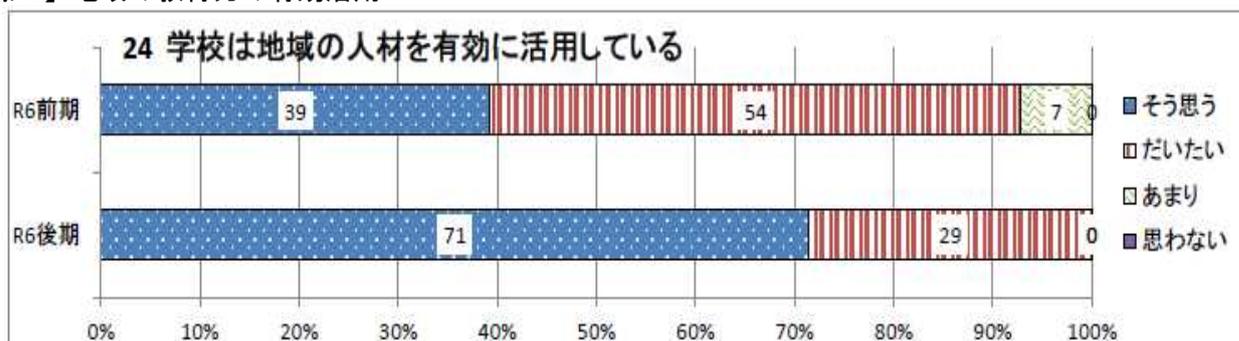
保護者
前期
3.15
↓



後期
3.16

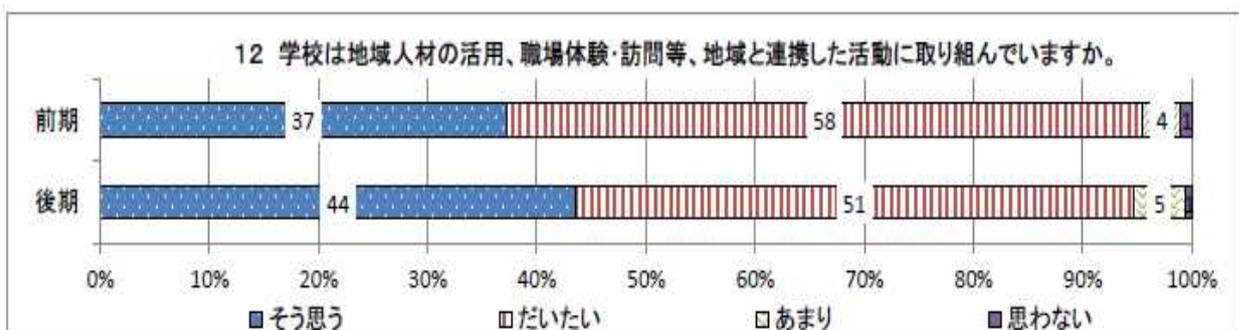
【評価指標10】地域の教育力の有効活用

教師
前期
3.32
↓



後期
3.71

保護者
前期
3.32
↓



後期
3.38